

サファク州臨時税課税簿 (1524-25年)の分析(下)

——16世紀イングランド東部における資本主義の展開(1)——

松 村 幸 一

まえがき

I サファク州の農業地域

- (1) サースクによるイングランドの地帯区分
- (2) サファク州の農業地域(以上第47巻第6号, 1997年)

II サファク州の工業地域

- (1) 毛織物工業地域
 - A 15世紀後半から16世紀前半まで
 - B ベイバー郡の毛織物工業
 - C 16世紀後半以降—いわゆる新毛織物工業(New Draperies)の展開
- (2) 亜麻織物工業地域(以上第50巻第1号, 1999年)

III サファク州における富の分布

- (1) 14~16世紀イングランドにおける富の分布の推移
- (2) 1520年代サファク州における富の分布
- (3) 都市と農村

IV 農民層分解

むすび(以上本号)

III サファク州における富の分布

前の二つの章では、サファク州を農業地域と工業地域とに分け、それぞれの特徴をのべた。要約すると、農業地域としては、州北西部の小さい沼沢地を除くと、州面積の約三分の二を占める州中央部の森林・放牧地(wood-pasture)地域と、この地域をはさんで北西部と東部海岸線沿いに位置する牧羊・穀作(sheep-corn)地域とに二分される(図2参照)¹⁾。森林・放牧地地域の特徴は早期囲いこみ地域であり酪農業が優

越した。これにたいして牧羊・穀作地域は、開放耕地制度が比較的小くまで残り、牧羊区による肥料の確保と穀作との混合農法がおこなわれ、牧羊区とともにこの地域に存在した養兎場、いずれも領主権にもとづくその利用をめぐって、領主と農民の利害が対立する地域であった。

工業地域についていえば、サースクが指摘したように、森林・放牧地地域における酪農業と織物業との結合という特徴がサファク州にもみられた。15世紀後半から16世紀20年代にかけてピークを迎えた広幅織の毛織物工業が、森林放牧地地域、とくにその南部、ベイバー郡を中心に展開し（図6,7参照）²⁾、スプリング家を筆頭とする富裕な織元が出現したが、16世紀後半にはノーファク州の新毛織物工業に取って代われ、ついにマニファクチュア段階に到達しえなかったと考えられる。他方、16世紀後半以降、亜麻織物工業が展開するのも森林・放牧地地域、その北部、ウェイヴニ川沿いにおいてであった（図8参照）³⁾。

前2章でのべた上記の地域的特徴を念頭におきながら、この章では1524年ないし1525年の臨時税課税簿を主たる史料として、サファク州の富の分布を検討する。

（1） 14～16世紀イングランドにおける富の分布の推移

臨時税は教会や聖職者を除く俗人の財産を課税対象としたから、社会の全階層を網羅していないという欠点をもつが、その限りにおいて、特定の年代の臨時税額によって、その時代のイングランドにおける富の地域的分布を知ることができる。さらにいくつかの異なる年代の臨時税額を比較することによって、富の地域的分布がその間どのように変化したかを把握することができる。

臨時税額によって富の地域的分布を示す試みは、すでに何人かの歴史家によっておこなわれているが、ここではイングランドにおけるサファク州の位置づけという点を考慮しつつ、いくつかの研究をふりかえておこう。

かつてスコウフィールドは1334年の臨時税と1514-15年の臨時税とを比較し、そのことによって、14世紀から16世紀にかけてイングランドで富の再分配がおこり、その

1) 拙稿「サファク州臨時税課税簿（1524-25年）の分析（上）」『大阪経大論集』第47巻第6号、1997年（以下においては拙稿（上）と略す）、31ページ。

2) 同上拙稿（中）『大阪経大論集』第50巻第1号、1999年（以下においては拙稿（中）と略す）、271、276ページ。

3) 同上、303ページ。

地理的分布に変動が生じたことを示した⁴⁾。その場合、かれが比較の起点においた1334年の臨時税は、動産のみを課税対象とし、課税の基準は、農村では動産価額の15分の1、自治都市と農村の王領地では10分の1とされた⁵⁾。これにたいしてスコウフィールドが比較の終点においた1514-15年の臨時税は、動産のみならず土地からあがる年収と年賃金収入を加えた3種類を課税対象とし、そのいずれも1ポンドにつき6ペンスという同じ税率であった⁶⁾。スコウフィールドが1334年の臨時税と比較するにあたって、1524-25年の臨時税を採用せず1514-15年のそれを採用したのは、1524-25年の課税基準が土地の年収と20ポンド以上の動産にたいしては1ポンドあたり1シリング、20ポンド未満の動産にたいしては1ポンドあたり6ペンスという半分の税率であり、税額によって富の大きさを示そうとする場合、課税基準がこのような異なる結果、20ポンドを超える動産所有者の富が過大に示されることになるかと判断したためである⁷⁾。

4) Schofield, R. S., "The Geographical Distribution of Wealth in England, 1334-1649", *Economic History Review*, 2nd ser., Vol. XVIII, no. 3, 1965. なおこの点については、拙稿「一六世紀初頭イングランド東部農村の状態」『経済史経営史論集』大阪経済大学日本経済史研究所, 1984年, 768-9ページにおいて簡単にふれたことがある。

5) 1334年の臨時税については、拙稿「サセックス臨時税課税簿(1524-25年)の分析」『大阪経大論集』第66号, 1968年, 165ページで簡単にふれておいたが、なお詳しくは次の諸文献を参照されたい。Beresford, M. W., *Lay Subsidies and Poll Taxes*, Bridge Place, near Canterbury, 1963; Hoyle, Richard, *Tudor Taxation Records, A Guide for Users*, PRO Publications, London, 1994; Jurkowski, M., Smith, C. L. and Crook, D., *Lay Taxes in England and Wales 1188-1688*, PRO Publications, Kew, 1998. なお1334年の臨時税課税簿それ自体は、グラスコックによって転写公刊されている(Glasscock, Robin E. (ed.), *The Lay Subsidy of 1334*, London, 1975.)。

6) Schofield, *op. cit.*, pp. 491-2. なお、1514-15年の臨時税の課税基準についてより正確に言えば、1514年の法律は、賃金収入、土地収入、動産のいずれも持たない者に一律4ペンス、賃金収入1ポンド以上2ポンド未満の者に6ペンス、賃金収入2ポンドを超える者には1ポンドあたり6ペンス、動産2ポンド以上を所有する者に1ポンドあたり6ペンス、年収1ポンド以上の土地所有者に1ポンドあたり6ペンス、以上いずれの場合も外国人は2倍とし、既婚女性、15歳未満の者、乞食等は課税対象から除かれると規定している(*Statute of the Realm*, Vol. III, Chapter XVII, p.106.)。

7) Schofield, *op. cit.*, p. 492, n.1. ただし1514-15年の臨時税においては、課税対象となった個々人の財産の査定が報告されていないので、この史料は、スコウフィールドがおこなったような富の州別地域分布を比較するには有効であるが、さらにたちいて、そ

表12 1334年と1515年の臨時税比較
(単位=£/面積1,000エーカー)

州	1334年の税額(順位)		1515年の税額(順位)		増加率(順位)	
Cornwall	7.7	(35)	50.8	(27)	6.60倍	(3)
Devon	7.9	(34)	67.4	(18)	8.53	(1)
Essex	18.5	(25)	102.0	(3)	5.51	(4)
Gloucestershire	28.0	(8)	93.3	(6)	3.33	(13)
Hertfordshire	22.2	(17)	90.0	(8)	4.05	(9)
Huntingdonshire	27.6	(10)	89.8	(9)	3.25	(16)
Kent	24.5	(14)	100.5	(4)	4.10	(8)
Middlesex	29.0	(7)	238.1	(1)	8.21	(2)
Somerset	19.3	(23)	104.5	(2)	5.41	(6)
Suffolk	22.0	(18)	90.4	(7)	4.11	(7)
Surrey	17.3	(28)	94.1	(5)	5.44	(5)
City of London	16,290.0		239,200.0		14.68	

スコウフィールドによって表示された俗人臨時税の各州面積1,000平方エーカーあたり税額の、1334年にたいする1515年の金額と増加率、ならびに各州のイングランドにおけるそれぞれの順位について、上位に位置する諸州を示すと表12のとおりである⁸⁾。

税額においても増加率においても圧倒的な数字を示すロンドンを除くと、1515年において、税額によって示される富の上から9位までを、サマセット州とグロスタシアの西部2州と、ミドルセックス州、エセックス州、ケント州、サリー州、サファク州、ハーフォードシア、ハンティンドンシアの東部7州が占めている。これら9州のうち1334年の時点で上位を占めていたのは、グロスタシアの8位とハンティンドンシアの10位のみであったから、この間富の地域分布に変動がおこったことがわかる。実際、増加率をとっても4倍以上の臨時税を負担した州は、西部のデヴォン州、コーンウォール州、サマセット州の3州と、東部のミドルセックス州、エセックス州、サリー州、サファク州、ケント州、ハーフォードシアの6州であり、この西部と東部への富の集

それぞれの地域内における財産別階層区分をするためには使えない。この点では1524-25年の臨時税の史料としての有用性は決定的である。

8) *Ibid.*, p. 504 より作成。

図9 1515年の臨時税上位9州



図10 1334年～1515年臨時税増加率上位9州



州の略称	C	Cornwall	He	Hertfordshire	Sm	Somerset
	D	Devon	Hu	Huntingdonshire	Sf	Suffolk
	E	Essex	K	Kent	Sr	Surrey
	G	Gloucestershire	M	Middlesex (Londonを含む)		

中は図9・10においてより明白に示すことができる。こうした富の地域変動の中で、サファク州がどのような位置を占めていたのかといえ、表12にみられるように、1334年から1515年に至る税額は、前者における州面積1,000エーカーあたり22.0ポンド（18位）から後者の90.4ポンド（7位）へと躍進し、その増加率4.11倍もまたイングランドで7位の位置を占めていたのである。

イングランドの西部と東部において富が増大した理由について、スコウフィールドは、羊毛と織物の生産によって説明しうる可能性を示唆しながらも、富の主要な源泉を決定するには、州という単位よりもっと狭い地域の比較、とりわけ富の増大が最も大きかった都市地域の、より詳細な検討が必要である、として慎重であった⁹⁾。

スコウフィールドにつづいて、シェイルはドクター論文「1524-25年の俗人臨時税課税簿に示されたイングランドにおける富の地域分布」とその他の論文で、1543-45年の臨時税課税簿をも併用しつつ、その納税者数と課税額によって、当時のイングランドの人口と富の地域分布を示した¹⁰⁾。シェイルが富の地域比較をする場合の指標は、税額を面積で除した金額であったが、スコウフィールドとやや異なり、税額（シリング）／面積（平方マイル）であった。シェイルは史料として1514-15年の臨時税課税簿を使わず、スコウフィールドが、動産額20ポンドをさかいにして課税基準を異にするために史料として採用しなかった1524-25年の課税簿をあえて使用した。その結果、1514-15年の記録では個々の町や村落の税額が不明であったために、州単位以上にたちいった狭い地域の税額が把握できなかったのにたいして、州よりもっと小さい範囲の単位、すなわち郡、教区ないし町や村、さらには個々人にいたるまでの税額を記録

9) *Ibid.*, p. 510.

10) Sheail, J., "The Regional Distribution of Wealth in England as Indicated in the Lay Subsidy Returns of 1524-25", Unpubl. Ph. D. thesis, Univ. of London, 1968. この論文は公刊されなかったもので、筆者は前2章の執筆時まで読む機会を得なかったが、近年、ホイール、R.W.によって編集公刊された。Do., *The Regional Distribution of Wealth in England as Indicated by the 1524-5 Lay Subsidy Returns*, edited by R.W. Hoyle, List & Index Society, Special Series, Vols. 28, 29, 1998（以下公刊されたこの論文を Sheail, 1998 と略記する）；do., "Men and Their Money in Tudor England", *Geographic Magazine*, Vol. 42, 1970；do., "The Distribution of Taxable Population and Wealth in England during the Early Sixteenth Century", *The Institute of British Geographers, Transactions*, No. 55, 1972（以下 Sheail, 1972 と略す。この論文はのち Patten, John (ed.), *Pre-Industrial England, Geographical Essays*, Folkstone, 1979 に収録された。）。

している1524-25年の課税簿を利用することによって、スコウフィールドの場合よりもっときめの細かい、すくなくとも郡を単位とする富の分布図を作成し、州内部の地域差をも把握することができた。こうして作成されたイングランド規模の納税額分布図から、シェイルは、イングランド南東部と北西部との対比、すなわちウォッシュ湾からセヴァン川に引いた線から南側の繁栄と、ハンバー川からセヴァン川に引いた線から北側の貧しさという特徴を指摘し、サースクの農業地帯区分—すなわち南東部・混合農業地帯、北西部・牧畜地帯—¹¹⁾との比較という問題に言及している。もっとも、シェイルは両地帯のそれぞれに富裕な地域が存在し、同じ州の内部にもいちじるしい貧富の差が存在することをも指摘し、地域史がさらに深化することによって富の分布の背景を明らかにしうることを示唆している¹²⁾。サファク州にかぎっていえば、シェイルは、州南部のベイバー郡には Lavenham, Long Melford, Nayland および Sudbury という織物工業とむすびついた非常に富裕な町が存在し、しかもその富の多くがごくわずかの人口によって所有されていたことを指摘している¹³⁾。

シェイルにつづいて1979年に、シェイルを含めてダービ、グラスコックおよびヴァージの4人は、1086年のドゥムズデイ・ブック、1334年の俗人臨時税ならびに1524-25年の俗人臨時税、この三つの年代の史料を比較することによって、その間のイングランドにおける富の地理的分布がどのように変化したかを地図のうえで示した¹⁴⁾。

三つの年代比較のうち、著者たちが1334年から1524-25年にいたる富の地域差の変化をはかる指標としたのは、1334年の動産額にたいする1524年ないし1525年の税額の比率であり、その数値が16.65パーセント以上の地域を富の増加率の高い地域、5.24パーセント以下の地域を増加率の低い地域、その中間を中間地域という三つに分類した。著者たちがこの分類にしたがって作成した地図から、富の増加率の高い16.65パーセント以上の地域のみを抜き出して再現したのが図11である¹⁵⁾。

11) 拙稿(上), 26-8ページ。

12) Sheail, 1998, pp. 49-50.

13) Sheail, 1972, p. 120, fig. 4, and p. 121.

14) Darby, H.C., Glasscock, R. E., Sheail, J. and Versey, G. R., "The Changing Geographical Distribution of Wealth in England 1086-1334-1525", *Journal of Historical Geography*, Vol. 5, No. 3, 1979.

15) *Ibid.*, p. 258, Figure 4 にもとづいて作成。

が高かったことが示されている。これらの地域が毛織物生産地と亜麻織物生産地であったことは前の章で示した¹⁷⁾。したがって同じサファク州の中でも、毛織物工業と亜麻織物工業こそが富の増大を担ったことを示唆するものである。

14世紀から16世紀にかけて、イングランドにおける富の地域的変動を論じて、1334年と1524-5年の臨時税課税簿を利用したのは、ダービラ4人以前にも、地方都市の順位の変動を指摘したホスキンスがあり¹⁸⁾、この間農村にたいして都市が勃興したとするブリッドベリがあった¹⁹⁾。このブリッドベリの主張を契機として、その後、1334年と1524-5年の臨時税課税簿を史料として利用することの妥当性をもふくめて、都市の勃興・衰退をめぐる論争が生じ、その中で、1334年の課税簿が都市の富を過小評価し、1524-5年の課税簿が都市の富を過大に評価している可能性も指摘された²⁰⁾。上記ダービラ4人の論文はこの論争過程のなかで書かれたものであり、ブリッドベリにも言及しつつ、臨時税の課税対象者が住んでいた一つの場所において、他の土地に所有するものをも含めてすべての財産が査定記録されたゆえ、農村にも財産をもつ都市商人の農村の富は都市の富として記録され、その逆も真であったこと、したがって「都市と農村との富の比較」という点では、これらの史料によって事実がゆがめられる可能性があることを認めている²¹⁾。にもかかわらず、ダービラ4人はその論文の結論において、ケアラス-ウィルソンの次の言葉を引き、これらの臨時税課税簿が富の地域的分布の変動を示すものとして有効であることを主張している²²⁾。「両時期における富の相対的分布の正確な基準がこれによって得られると考えるのは明らかに愚かなことであろう。」「しかし、それにもまして、臨時税という証拠をまるっきり拒否し、査定

17) 拙稿(中)、271ページ、図6、303ページ、図8参照。

18) Hoskins, W. G., "English Provincial Towns in the Early Sixteenth Century", *Transactions of the Royal Historical Society*, 5th ser., Vol. VI, 1956 (のち *Provincial England: Essays in Social and Economic History*, London, 1963 に収録), p.71; do., *Local History in England*, London, Longman, 1st ed., 1959, 2nd ed., 1972, pp. 236-241, Appendix I: The ranking of provincial towns 1334-1851.

19) Bridbury, A. R., *Economic Growth: England in the Late Middle Ages*, London, 1962, 1975, reprinted ed., Westport, 1983.

20) この論争については、酒田利夫『イギリス中世都市の研究』有斐閣、1991年、第1章、同上『イギリス都市史』三嶺書房、1994年、第3章、第4章を参照。

21) Darby et al., *op.cit.*, p. 256.

22) *Ibid.*, p. 261.

がイングランドの異なる諸地域の相対的富に生じていた変化をおおまかに反映しているにちがいないことまで認めないのは、もっと愚かなことであろう。』²³⁾

(2) 1520年代サファク州における富の分布

筆者は本稿の「まえがき」において、分析のための主たる史料として、ハーヴェイによって転写・公刊されたサファク州の1524-25年の臨時税課税簿をあげたが²⁴⁾、1998年、すでにのべたようにシェイルのドクター論文が、ホイルによって若干の補論を付して編集公刊された²⁵⁾。これは2部構成となっていて、第1部は第1編において1524年と1525年の俗人臨時税の総括的な詳しい説明をおこない、第2編において、この史料を使ってイングランド全体の納税者と税額の分布を図示し、さらに各州ごとに納税者と税額の郡別分布を示す地図を作成し、第2部 (gazetteer) ではこれらの地図を作成するために使われた納税者数と税額の基礎的データを各州ごとに郡別、教区別にいたるまで与えている。注10)にあげたシェイルのドクター論文以外の諸論文は、納税者と税額の分布図の背後にある基礎的数字を示していなかっただけに、この第2部 (gazetteer) のデータはきわめて有用であり、とりわけサファク州に関していえば、これを利用することによって、ハーヴェイによって転写された史料を補足し補正することができるようになった。

1524年と1525年の課税簿は、そのすべてが完全に保存されているわけではない。ハ

23) 近年刊行された『ケンブリッジ版ブリテン都市史』全3巻は、過去30年にわたる都市史研究の現時点における集大成とも考えられるが、その第1巻で、アラン・ダイヤーは、イギリス中世都市の相対的規模と富を評価するために利用しうる基礎的情報として、1334年と1524-5年の臨時税課税簿によって作成した順位のリストを含めている (Palliser, D. M., ed., *The Cambridge Urban History of Britain*, Vol. I, 600-1540, Cambridge, 2000, Appendix: Ranking Lists of English Medieval Towns (by Dyer, A.), p.747 sqq.)。

以下において、筆者も富の地域分布を示すものとして1524-25年の納税額を利用するが、土地年収と動産20ポンド以上層にたいする2倍の課税基準が、富裕層の富を実態より大きく示すこととなったことを承知のうえで、シェイルがその論文の各章の見出しでいっているように、それは絶対的なものではなく、あくまで相対的な富 (relative wealth) を示すものとしてであることを付記しておく。

24) 拙稿(上)、24-5ページ。Hervey, S.H.A. (ed.), *Suffolk in 1524, being the Return for a Subsidy granted in 1523*, Suffolk Green Books, No. X, Woodbridge, 1920. 以下この書物を Harvey と略記する。

25) 前注10) 参照。

ーヴェイは、郡別に整理されている記録のうち、保存状態のよいいずれか一つの年のものを選んで転写したので、たとえばベイバー (Babergh) 郡については1524年の、ブラックバーン (Blackbourne) 郡については1525年の記録が転写され、両年の記録のいずれにも欠陥がある場合は、たとえばコウニズ (Colneis) 郡のように、同一郡内の教区によって1524年の記録と1525年の記録とが混合して編集された²⁶⁾。他方、シェイルは課税簿そのものを転写しているわけではなく、もっぱら税額と納税者数を集計しているので、その論文から課税対象であった土地収入、動産、賃金の金額を知ることではできないけれども、ハーヴェイが利用しなかった史料をも補充し、また彼の誤記を訂正してもいるので、税額と納税者数に関する限り、シェイル論文をも参照することが必要となった。

ハーヴェイとシェイルによって示されたデータにもとづき、筆者の判断にしたがって、サファク州内各郡における1524年と1525年のいずれか把握しやすい年代の臨時税の税額と納税者数をまとめたのが表13である²⁷⁾。

26) Hervey, pp.1-46, 47-65, 146-151.

27) シェイルは、ハーヴェイが1524年と1525年の二つの課税簿のうち、その一方をとりあげ他を無視した仕方が妥当ではなかったこと、転写に誤りがあることなどを批判している (Sheail, 1998, Vol. 1, p. 59)。ただし、シェイルの数字にも不可解な箇所が認められる。たとえば、ベイバー郡 Bures の1524年の納税者数はハーヴェイの転写によって数えると90人となるが (Hervey, pp. 19-21.), シェイルは73人という数字をあげていてその差が大きい (Sheail, 1998, Vol. 2, p. 321.)。1525年の人数をシェイルは92人と数え、ハーヴェイの転写によって数えた1524年の90人に近い。そこで原資料E179/180/134に直接あたって数えてみると90人であった。また同郡 Boxford の税額、ハーヴェイの23ポンド10シリングにたいするシェイルの23ポンド15シリングという食い違いがある。原資料にあたってみると、この場合は明らかにハーヴェイの読み間違いでありシェイルの数字が正しかった。このようにハーヴェイとシェイルとの食い違いは細かい点では随所にみられるが、そのすべてを原資料にあたることは困難であり、ハーヴェイの転写を読みながら、筆者が暫定的な判断をくださざるをえなかった。なお、富の分布を示す指標として、シェイルは「税額／土地面積 (平方マイル)」を採用しているが、筆者は従来おこなってきたサセックス州その他との比較を考慮して、税額／納税者数という基準を踏襲する。またシェイルはサファク州の納税総額を集計するさい、別個に徴収された2人の貴族、ノーファク公とウィロウビ (Willoughby) 卿の1524年の233ポンド6シリング8ペンスと1525年の34ポンドを算入して、1524年の総額を3,811ポンド14シリング10ペンス、1525年のそれを3,383ポンド5シリング1ペンスと計算しているが、筆者は貴族の分を算入せず、また1524年と1525年とを混合して計算してい

表13 郡別納税額と納税者数

郡	年 代	納 税 額			納税者数 人	1人あたり 平均納税額 d.
		£	s.	d.		
Babergh	1524	615	18	8	2,029	72.9
Blackbourne	1525	102	13	6	619+?	30.0
		(77	6	10)		
Blything	1525	248	2	1	1,612	36.9
Bosmere & Claydon	1525	157	12	11	805	47.0
Bury St Edmunds	1525	169	8	8	658	61.8
Carlford	1525	71	8	2	401	42.7
Colneis	1524・25	41	18	4	338	29.8
Cosford	1525	163	0	4	876	44.7
Dunwich	1525	32	0	6	235	32.7
Hartismere	1525	128	12	8	976	31.6
Hoxne	1524	150	3	6	979	36.8
Ipswich	1525	223	17	2	412+?	110.9
		(190	9	2)		
Lackford & Exning	1525	94	10	9	400+?	27.9
		(46	10	7)		
Loes	1524・25	138	11	4	640	52.0
Lothingland	1525	54	0	3	408	31.8
Mutford	1524	39	8	9	330	28.7
Plomesgate	1525	106	0	0	678	37.5
Risbridge	1524・25	115	3	1	1,063+?	24.1
		(106	14	2)		
Samford	1524	192	11	0	751	61.5
Stow	1524・25	69	6	0	437(398)	41.8
Thedwardistre	1525	101	2	8	642	37.8
Thingoe	1525	89	4	11	465	46.1
Thredling	1525	29	8	4	194	36.4
Wangford	1525	191	19	8	906	50.9
Wilford	1525	59	2	8	451	31.5
		3,385	5	11	17,305+?	45.5
		(3,270	2	2)	(17,266)	

備考 ブラックバーン郡、イプスウィッチ、ラックフォード・エクスニング郡、リスブリッジ郡の納税者数は判明している分だけの合計で実際より少なく納税総額と対応していない。またストウ郡の納税額は398人分の金額である。() 内の数字は納税者数と納税額の対応関係が判明しているものである。したがって、1人あたり納税額を算出する計算式は $\text{£}3,270.2\text{s.}2\text{d}/17,266\text{人}=45.5\text{d.}$ となる。

さしあたりサファク州の1人あたり平均納税額45.5ペンスを他のいくつかの州と比較すると、イングランド中部バッキンガムシアの32.2ペンス²⁸⁾にくらべると相当高く、南部サセックス州の45.6ペンス²⁹⁾、西部ドーセット州の43.6ペンス³⁰⁾とほぼ同じ水準であり、西部デヴォン州の40.9ペンス³¹⁾よりやや高い。もちろんこれら州単位の平均数字は、それぞれの州の地域史を深めることによって、その高低差をもたらした諸要因を明らかにするための出発点にすぎない。

表13によると、3自治都市(Bury St Edmunds, Dunwich, Ipswich)と22郡の1人あたり平均納税額には、最高110.9ペンスのイプスウィッチから最低24.1ペンスのリスブリッジ郡にいたるまで相当のばらつきがあることがわかる。いまこれらの諸郡を1人あたり平均納税額(1)50ペンス以上、(2)40~49ペンス、(3)30~39ペンス、(4)30ペンス未満の四つのグループに分けて図示すると図12のようになるが、これを第1章でのべた農業地域区分³²⁾とかかわらせて考えると次のようにいえる。すなわち、サフ

るためシェイルの合計額とは一致しない。

28) 拙稿「16世紀バッキンガムシアにおける農業資本主義展開の諸相(2)(以下「バッキンガムシア(2)」と略す)『大阪経大論集』第107号, 1975年, 39ページ, 表6。

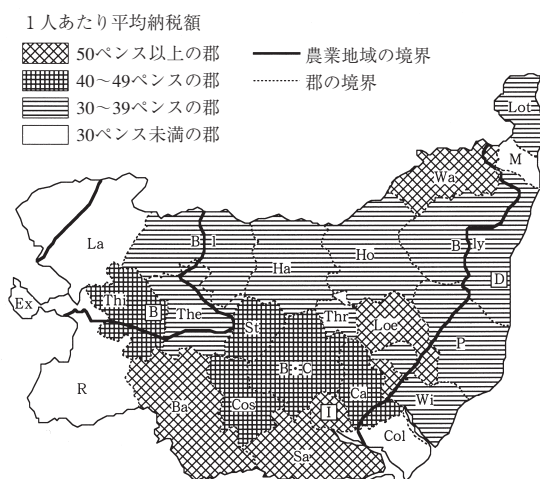
29) 拙稿「サセックス臨時税課税簿(1524-25年)の分析」(以下「サセックス」と略す)『大阪経大論集』第66号, 1968年, 172ページ, 表3。筆者はこの論文で3州の位置づけについて、「かなり富裕な農業県としてのサセックスが、貧しいバッキンガムシアとゆたかな織物工業中心地をもつサファクとの中間にある」というコーンウォルの見解を紹介した(同上, 169ページ)。筆者の計算によって、サファク州とサセックス州の1人あたり平均納税額がほぼ同じで、二つの州の平均的富が同じ水準にあるとみられるのは、サセックス州の史料が主として1524年のものにより、サファク州のそれが1524年の場合にくらべて低く査定されたと思われる1525年の史料に多く依存しているためであるかもしれない。

30) Stoaite, T. L.(ed.), *Tudor Subsidies granted in 1523, 1543, 1593*, Bristol, 1982; 乾秀明「16世紀前半イングランドドーセット州における農民層分解」『大樟論叢』第30号, 1998. 83ページ, 表3による。

31) この数字は, Stoaite(ed.), *Devon Lay Subsidy Rolls 1524-7*, Bristol, 1979 から集計したエクセターを除くデヴォン州の納税総額(£4,221 12s. 1d.), 納税者総数(26,034人)と, Rowe, Margery M.(ed.), *Tudor Exeter, Tax Assessments 1489-1595, including the Military Survey 1522*, Devon and Cornwall Record Society, New Series, Vol. 21, Torquay, 1977 によって得られた都市エクセターの納税総額(£353 19s. 8d.), 納税者総数(792人)とを合算して得られた計算式(£4,575 11s. 9d./26,826人)によるものである。

32) 前掲拙稿(上), 29ページ以下, 図3~4。

図12 郡別1人あたり平均納税額（単位ペンス）



自治都市・郡の略称

B	Bury St Edmunds	Cos	Cosford	Loe	Loes	The	Thedwardistre
Ba	Babergh	D	Dunwich	Lot	Lothingland	Thi	Thingoe
Bl	Blackbourne	Ex	Exning	M	Mutford	Thr	Thredling
Bly	Blything	Ha	Hartismere	P	Plomesgate	Wa	Wangford
B・C	Bosmere & Claydon	Ho	Hoxne	R	Risbridge	Wi	Wilford
Ca	Carlford	I	Ipswich	Sa	Samford		
Col	Colneis	La	Lackford	St	Stow		

ァク州は3本の太線で区切られた四つの地域のうち、最西北隅の沼沢地域、その東側の牧羊・穀作地域と東海岸沿いの縦に細長く伸びるもう一つの牧羊・穀作地域、この二つの牧羊・穀作地域にはさまれ州のほぼ三分の二を占める森林・放牧地地域から成っている。そのうち北西部の沼沢地と牧羊・穀作地域のうちラックフォード・エクスニング郡が1人当たり平均納税額の最も低い30ペンス未満のグループに属している。これは第1章でのべたように、ブレッklandとよばれる農耕に適さない土壌の「不毛」さ、囲いこみのおくれ、休閒地の比率の高さ等と関係していると思われる。東海岸沿いのもう一つの牧羊・穀作地域の諸郡はいずれも1人あたり平均納税額が39ペンス以下の低いグループに属している。これまたこの地方の土壌がサンドリングズとよばれる沼沢地をふくむ砂礫層で、同時代の人によって他の地方ほど肥沃ではなく羊と兎だけに適している、といわれたことを裏付けているようである³³⁾。

他方、州中央部の森林・放牧地地域では、その南部のイプスウィッチ、ベイバー郡、サムフォード郡、中央部のロウイス(Loes)郡、北部のワングフォード郡はいずれも50ペンス以上という高い納税額を誇り、コスフォード、カールフォード、ボスマ・クレイドンの3郡も40～49ポンド・グループに属している。全体としてのこの地方の納税額の高さは、第1章でのべたように、農業地域としては囲いこみ地が多く放牧地に恵まれ、酪農と牧畜によって特徴づけられるこの森林・放牧地地域の農民が、「牧羊・穀作地域の仲間よりは恵まれていた」というサースクの指摘と一致している³⁴⁾。のみならず、工業地域についてのべた第2章の記述を考え合わせると、同じ森林・放牧地地域の中でも、最も高い50ペンス以上の平均納税額を誇るグループに属している南のベイバー郡とサムフォード郡の富は毛織物工業によって、北のワングフォード郡の富は亜麻織物工業によって支えられていたことは明らかである³⁵⁾。

(3) 市場町・織物生産地の富と農村の富

郡の中での町の富に目を移そう。

エヴァリットは16-7世紀イングランド・ウェイルズにおける農産物市場町について論じた中で、サファク州については33箇所の名をあげている³⁶⁾。筆者は本稿第2章で毛織物生産地の名を24箇所あげた³⁷⁾。両者に重複するものがあるのでまとめると、43箇所の商工業立地をあげることができる(付表1参照)。これにたいしてその他の農村教区は441箇所が課税対象となった。一方における市場町・毛織物生産地、他方における農村地域、(区分のできないラックフォード・エクスニング郡を除いて)この両者における臨時税の負担を対比し、サセックス州とバッキンガムシアの2州と比較したのが表14である³⁸⁾。

33) 同上, 36-44ページ。

34) 同上, 32-6ページ。

35) 拙稿(中), 中でも271ページの図6, 303ページの図8と本稿の図1とを参照されたい。

36) Everitt, A., "The Marketing of Agricultural Produce", Thirsk, J. (ed.), *The Agrarian History of England and Wales*, Vol. IV, 1500-1640, Chap. VIII, p. 475.

37) 前掲拙稿(中), 271ページ, 図6. 亜麻織物業についても図8と表10で織布工所在地をあげたが、これは19世紀前半に及ぶものなのでここでは割愛した。

38) サセックス州については, Cornwall, J. (ed.), *The Lay Subsidy Rolls for the County of Sussex 1524-25*, Lewes, 1956, バッキンガムシアについては「バッキンガムシア(2)」, 46ページ, 表8による。

表14 市場町・毛織物生産地と農村の臨時税（3州比較）

州	市場町・毛織物生産地							農 村						
	納 税 額				納税者数			納 税 額				納税者数		
	£	s.	d.	(%)	人	(%)	d.	£	s.	d.	(%)	人	(%)	d.
サファク	1,571	17	0	(48.1)	5,238	(31.1)	72.0	1,693	11	6	(51.9)	11,628	(68.9)	35.0
サセックス	310	8	0	(13.4)	1,860	(15.9)	40.1	2,010	0	5	(86.6)	9,837	(84.1)	49.0
バッキンガムシア	234	14	0	(24.0)	1,473	(20.5)	38.2	743	1	1	(76.0)	5,709	(79.5)	31.2

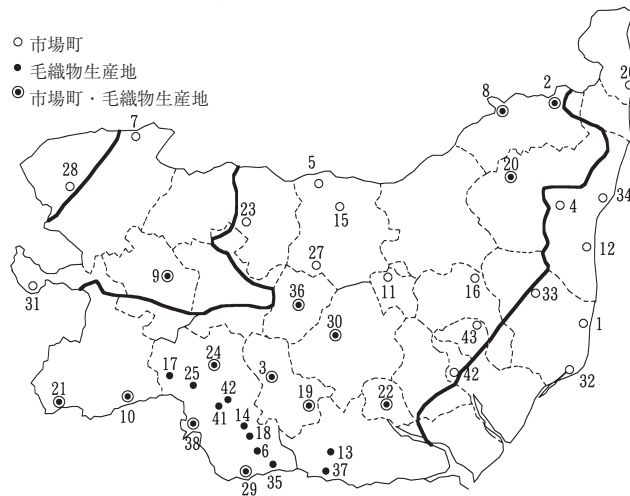
備考 サファク州のラックフォード・エクスニング郡は市場町と農村をふくめて納税者数の確認できない教区があり、市場町と農村の区分ができないので除く。

これによると、サファク州では全体の約3割を占める市場町・毛織物生産地の納税者が納税総額のほぼ半分を負担し、その1人あたり平均納税額は農村地域の2倍を超える。他の2州と比較するとサファク州における商工業の比重の高さがいっそうはつきりする。すなわちサセックス州とバッキンガムシアでは農村にたいする市場町（ここには毛織物生産地はない）の比重は、納税額においても納税者数においてもずっと少なく、農村の比重が8割前後を占める。また1人あたり納税額も市場町と農村とのあいだにさほど大きな開きはない。

とはいえサファク州においても、商工業の富が州内均等に分布しているわけではないことは、図13と表15によってはっきりする。図13は図6で示した毛織物生産地に市場町を加えることによって、商工業立地が毛織物工業のみの場合にくらべて多少とも州内に拡散していることがみてとれる。にもかかわらず、その分布が森林・放牧地地域の南部にかたよっているという特徴は否めない。

表15は市場町・毛織物生産地と農村と、それぞれの臨時税負担を郡別に示したものである。これによると、市場町・毛織物生産地と農村とのそれぞれが負担した臨時税の比率は、郡によって大きな開きのあることがわかる。市場町・毛織物生産地が農村にくらべて最も大きい負担をしたのはベイバー郡で、ここでは6割の納税者が8割の臨時税を負担した。コスフォード郡は5割弱の市場町・毛織物生産地納税者が7割を超える臨時税を負担した。この2郡が双壁である。つづいてロウジンランド、サムフォード、スレドリング、ワングフォードの4郡は、5割を超える臨時税を市場町・毛織物生産地の納税者が負担したという点でくつわを並べている。対極に全く市場町・毛織物生産地をもたないカールフォード、コウニズ、ホクスン、マットフォードなど相対的に貧

図13 サファク州の市場町・毛織物生産地



1 Aldeburgh 2 Beccles 3 Bildeston 4 Blythburgh 5 Redgrave cum Botesdale 6 Boxford
 7 Brandon 8 Bungay 9 Bury St Edmunds 10 Clare 11 Debenham 12 Dunwich
 13 East Bergholt 14 Edwardstone 15 Eye 16 Framlingham 17 Glemsford 18 Groton
 19 Hadleigh 20 Halesworth 21 Haverhill 22 Ipswich 23 Ixworth 24 Lavenham
 25 Long Melford 26 Lowestoft 27 Mendlesham 28 Mildenhall 29 Nayland
 30 Needham Market 31 Newmarket 32 Orford 33 Saxmundham 34 Southwold
 35 Stoke by Nayland 36 Stowmarket 37 Stratford St Mary 38 Sudbury
 39 Waldingfield Magna 40 Waldingfield Parva 41 Wickham Market 42 Woodbridge 43 Woolpit

しい農業中心の諸郡がある。シンゴウ郡は自治都市として課税簿の別枠に記載されている Bury St Edmunds を郡内にかかえているので、単純に農村の郡とはいえない。

納税額の上位を占めるサファク州の市場町・毛織物生産地をドーセット州・サセックス州・バッキンガムシア 3 州の市場町と対比したのが表16である³⁹⁾。サファク州の市場町・毛織物生産地43箇所には、最高額の臨時税223ポンドを支払った Ipswich から、わずかに3ポンド余しか支払わなかった Ixworth および Saxmundham にいたる大きな開きがある(付表1)。その中で50ポンド以上を支払った上位10箇所を表16にあげ

39) ドーセット州については、前掲乾論文、84ページ、表4、5による。ただし、納税者数については、Stoate, *op. cit.*, pp. 107, 144-5, 193-8 による。サセックス州については、Cornwall, *op. cit.*, pp. 1-6, 35, 99-101, バッキンガムシアについては前掲拙稿「バッキンガムシア(2)」, 41ページ、表7による。

表15 市場町・毛織物生産地と農村の臨時税(郡別)

郡	年代	市場町・毛織物生産地								農				村			
		教区数		納税額			納税者数			教区数		納税額			納税者数		
			£	s.	d.	(%)	人	(%)		£	s.	d.	(%)	人	(%)		
Babergh	1524	11	496	9	3	(80.6)	1,216	(59.9)	21	119	9	5	(19.4)	813	(40.1)		
Blackbourne	1525	1	3	15	0	(4.8)	53	(8.6)	22	73	11	10	(95.2)	566	(91.4)		
Blything	1525	3	64	6	0	(25.9)	252	(15.6)	46	183	16	1	(74.1)	1,360	(84.4)		
Bosmere & Claydon	1525	1	20	13	10	(13.1)	63	(7.8)	30	136	19	1	(86.9)	742	(92.2)		
Bury St Edmunds	1525	1	169	8	8	(100)	658	(100)									
Carlford	1525								18	71	8	2	(100)	401	(100)		
Colneis	1524・25								10	41	18	4	(100)	338	(100)		
Cosford	1525	2	120	1	0	(73.6)	408	(46.6)	14	42	19	4	(26.4)	468	(53.4)		
Dunwich	1525	1	32	0	6	(100)	235	(100)									
Hartismere	1525	3	26	8	4	(20.5)	202	(20.7)	29	102	4	4	(79.5)	774	(79.3)		
Hoxne	1524								24	150	3	6	(100)	979	(100)		
Ipswich	1525	1	223	17	2	100	412	(100)									
Lackford & Exning	1525	3							12								
Loes	1524・25	2	58	15	8	42.4	255	(39.8)	18	79	15	8	(57.6)	385	(60.2)		
Lothingland	1525	1	29	11	8	54.8	144	(35.3)	15	24	8	7	(45.2)	264	(64.7)		
Mutford	1524								8	39	8	9	(100)	330	(100)		
Plomesgate	1525	3	40	11	0	(38.3)	239	(35.3)	21	65	9	0	(61.7)	439	(64.7)		
Risbridge	1524・25	2	20	0	2	(17.4)	150	(14.1)	30	95	2	11	(82.6)	913	(85.9)		
Samford	1524	2	105	9	3	(54.8)	207	(27.6)	26	87	1	9	(45.2)	544	(72.4)		
Stow	1524・25	1	22	16	10	(33.0)	99	(24.9)	11	46	9	2	(67.0)	299	(75.1)		
Thedwardistre	1525	1	8	5	10	(8.2)	59	(9.2)	23	92	16	10	(91.8)	583	(90.8)		
Thingoe	1525								19	89	4	11	(100)	465	(100)		
Thredling	1525	1	15	12	6	(53.1)	93	(47.9)	4	13	15	10	(46.9)	101	(52.1)		
Wangford	1525	2	106	9	10	(55.5)	452	(49.9)	25	85	9	10	(44.5)	454	(50.1)		
Wilford	1525	1	10	4	2	(17.3)	61	(13.5)	15	48	18	6	(82.7)	390	(86.5)		
		43	1,574	16	8	(48.2)	5,258	(31.2)	441	1,690	11	10	(51.8)	11,608	(68.8)		
		<40>								<429>							

備考 < >内はラックフォード・エクスニング郡を除く数字。ワングフォード郡の Boyscote in Bungay は Bungay とあわせて一つの市場町とみなす。

表16 上位の市場町・毛織物生産地（4州比較）

州	地 名	納税額			納税者数 人	1人あたり 平均納税額 d.
		£	s.	d.		
サファク	Ipswich	223	17	2	412+?	110.9
	Lavenham	179	13	10	199	216.7
	Bury St Edmunds	169	8	8	658	61.8
	Hadleigh	108	10	4	303	86.0
	Beccles	71	9	8	309	55.5
	Long Melford	65	7	0	154	101.8
	Sudbury	60	14	4	218	66.8
	Nayland	58	13	4	102	138.0
	Stratford St Mary	55	0	3	84	157.2
	East Bergholt	50	9	0	123	98.4
ドーセット	Dorchester	76	16	8	172	107.2
	Shaftesbury	59	11	7	213	67.1
	Sherborne	42	5	8	176	57.7
サセックス	Chichester	63	2	11	301	50.3
	Lewes	42	11	8	208	49.1
	Petworth	29	4	0	177	39.6
バッキンガムシア	High Wycombe	45	0	2	175	61.7
	Aylesbury	37	1	4	202	44.0
	Amersham	28	3	8	124	54.5

備考 Ipswichの納税者412人に対応する税額は£190 9s. 2d.である。

たが、そのすべてが毛織物生産地であり、中でも上位3箇所はイングランド全体でも上位20傑にはいり、Ipswichは9位、Lavenhamは12位、Bury St Edmundsは13位を占めた⁴⁰⁾。したがって、サファク州の富は農村に対する商工業の富であり、それはすぐれて毛織物工業による富であった。そのことは、毛織物工業をもたないサセックスとバッキンガムシア2州の上位市場町のうち、サファク州の上位10位にようやくはいることができるのはChichester 1箇所のみであることをみれば明らかである。サファ

40) Sheail, 1998, Vol. 2, p. 52. シェイルによるこの順位は1525年のものである。

ク州の高い納税額を支えた毛織物工業の内実については第2章で詳しくのべたので繰り返さないが、その高い納税額を担った高額納税者のスプリング家をはじめとする富裕な織元たちの背後に、かれらに労働力を提供した多くの資産のない織布工や労働者が存在したことをあらためて強調しておきたい。

ドゥムズデイ・ブックにサファク州の市場は9箇所記録されたが、13世紀から14世紀にかけて70箇所の市場が開設された。中世末期にその数は98に達したが、17世紀まで存続したのは25箇所であったという⁴¹⁾。若干の個別例をあげると、東海岸の港町 Dunwich はドゥムズデイ・ブックにおいて Ipswich のライヴァルであったが、1334年の臨時税は、Ipswich の64ポンドにたいして Dunwich の12ポンドという差がつき、1525年にいたって前者の223ポンドにたいして後者の32ポンドとその差は開いた。Dunwich は1524-25年の課税簿ではまだ自治都市として別枠に記載されていたとはいえ、魚の需要減退、外国との競争、とりわけ海の浸食作用によって衰退がすすみ、16世紀末には港が完全に封鎖されたという⁴²⁾。これは衰退の例であるが、1525年に179ポンドを支払って2位を確保した Lavenham が1334年には7ポンド4シリングしか支払わず、Dunwich の下位に甘んじていたのをみると、これは大逆転の躍進例である⁴³⁾。Newmarket は1227年に市場の特許状を得、大市 (fair) の許可を得たが、1525年に7ポンド余を支払い38位に甘んじたところをみるとたいした発展を遂げたとはみえない。にもかかわらず、15世紀には肉屋、服地屋、縄職人、織物商、なめし皮職人、金物屋、チーズ商、靴屋などの多彩な職種に市場が分割されていたという。小さいながら市場の機能を果たしていた例である⁴⁴⁾。1525年に14ポンドを支払い29位の Orford は、12世紀初頭に市ができ1334年には10ポンドを支払ったから、Dunwich より下位ではあるが Lavenham より上位にあり、16世紀までオールド (Alde) 川沿いの商業を独占していたというが、その後 Aldeburgh にとって代わられて衰退したようである⁴⁵⁾。

市場町の盛衰に関して臨時税は多くの手がかりを与えてくれるが、その具体的な諸

41) Dymond, D., & Northeast, P., *A History of Suffolk*, Chichester, 1985, pp. 43, 86.

42) Brodt, B, "East Anglia", Palliser (ed.), *op. cit.*, p. 648; Glasscock, *op. cit.*, p. 294; Dymond & Northeast, *op. cit.*, p. 61.

43) Glasscock, *op. cit.*, p. 291.

44) Brodt, *op. cit.*, pp. 651-2.

要因の解明はなお今後の課題として残されている。

IV 農民層分解

農民層分解の問題にたちいるためには、臨時税の税額をもってしては不十分であり、課税対象となった財産の内容とその大きさを知る必要がある。したがって、ここからさきはシェイルの数字は使えないので、不完全を承知でハーヴェイによって転写された課税簿そのものに依拠しなければならない。

農村民の課税対象となった財産による階層区分をもって農民層分解とみなすために必要な手順と前提は次のとおりである。

- ①農村民を検出するためにまず市場町と毛織物生産地を除く。また課税簿において、教区の納税額が把握できても個々人の財産が不明な教区は除いた。その結果、とりあげた教区数は納税額が判明した441箇所の農村教区(表15)よりも少なく413箇所となった。
- ②課税対象は賃金による年収、動産価額、土地による年収の三種類であるが、そのうち土地収入は除外し、動産に課税された者でも、ナイト、エスクァイア、ジェントルマン等の身分が記された者は除外した。
- ③課税簿にはギルド等の財産が記録されていて、納税額の計算にはこれを含めたがここでは除外した。
- ④動産のすべてが経営資産とは限らないが、従来他の諸州で想定してきたように、動産額がほぼ経営の大きさと照応しているものとみなす⁴⁵⁾。
- ⑤賃金収入と動産額によって階層区分する場合、従来、筆者は賃金収入と動産2ポンド未満層を貧農・農業労働者、動産3～19ポンド層を中農、20ポンド以上層を富農とみなし、2ポンド層については判断を保留してきた。その後ドーセット州の課税簿を分析した乾秀明論文は、中農層の幅を広げて2～19ポンド層とする試論を提起した。ドーセット州との比較の便を考慮して、本稿ではいささか簡略にすぎんきらいはあるが、2～19ポンド層を中農とみなして階層を三区分とした(詳細については付表2を参照されたい)⁴⁷⁾。

45) *Ibid.*, p. 653.

46) 拙稿「サセックス」178-9ページ。

47) 前掲乾論文、95ページ。

表17 賃金収入・動産価額による農民層の階層区分（4州比較）

州		賃金・動産 £ 2 未満	£ 2 ～19	£ 20以上	計
サファク	人数	4,286	5,817	305	10,408
	(%)	(41.2)	(55.9)	(2.9)	(100)
	価額 £ s.d.	4,586. 17. 8.	26,828. 5. 0.	8,584. 18. 0.	40,000. 0. 8.
	(%)	(11.5)	(67.1)	(21.5)	(100)
サセックス	人数	3,940	4,882	590	9,412
	(%)	(41.9)	(51.9)	(6.3)	(100)
	価額 £ s.d.	4,142. 15. 10.	23,815. 3. 8.	19,721. 0. 0.	47,678. 19. 6.
	(%)	(8.7)	(49.9)	(41.4)	(100)
バッキンガムシア	人数	2,430	2,994	113	5,537
	(%)	(43.9)	(54.1)	(2.0)	(100)
	価額 £ s.d.	2,546. 1. 4.	12,887. 13. 4.	3,191. 13. 4.	18,625. 8. 0.
	(%)	(13.7)	(69.2)	(17.1)	(100)
ドーセット	人数	1,784	3,938	317	6,039
	(%)	(29.5)	(65.2)	(5.2)	(100)
	価額 £ s.d.	1,689. 19. 9.	19,402. 3. 1.	10,936. 7. 10.	32,028. 10. 8.
	(%)	(5.3)	(60.6)	(34.1)	(100)

表17は上記の手順と前提にしたがって4州を比較したものである⁴⁸⁾。これら4州は、サファク州がイングランド東部の繁栄した毛織物工業をもつ州であるのにたいして、サセックス州は南部の農業州、バッキンガムシアはミッドランドの農業州、ドーセット州は西部毛織物工業地域のはずれにある農業州と、それぞれ地域と特色を異にする。表17を一見して明らかなことは、ドーセット州が他の3州に比して階層の分解がおくれていることである。すなわちサファク、サセックス、バッキンガムシアの3州は、中農とみなした動産2～19ポンド所有層が5割前後の人数を占め、かれらが5割ないし6割の動産を所有するのにたいして、賃金収入・動産2ポンド未満の貧農・賃金労

48) サセックス州については、拙稿「サセックス」180-1ページ、表6から、バッキンガムシアについては、拙稿「バッキンガムシア(3)」『大阪経大論集』第109・110合併号、1976年、162-3ページ、表18から作成。ドーセット州については、前掲乾論文99-100ページ、表11(a,b)から若干の計算間違いを訂正して作成。なお、乾論文に収録されているサファク州に関する付表(1)～(6)の数字は織物生産地を除く前のものであり本稿の数字と異なる。

働者層が4割前後の人数を占め、かれらが1割前後の賃金・動産を占めていることであり、三つの州に大きな差はない。これにたいして、ドーセット州では動産2～19ポンド層の人数が6割5分に達し、賃金収入・動産2ポンド未満の貧農・賃金労働者層が3割に達しない。乾論文がデヴォン州のデータをもあわせて検証した結果指摘しているように、西部地方が東部、南部地方にくらべて農民層分解、したがって農業ブルジョア化が相対的にたちおくらせていたといえるのであろう⁴⁹⁾。ただし、西部地方のこの農民層分解のおくれという事実は、すでにのべたようにこの地方が14～16世紀に富を上昇させた地域であり(図9～11)、それに西部の毛織物工業の発展が寄与していたこととどのように関わるか、を解明することはなお今後に残された課題である。

ドーセット州以外の三つの州が、大きな違いをもたないで、したがって個性を喪失したままで示されるのは、数字の背後にある具体像がないからでもあるが、州を全体として平均化した数字によって、州内部の地域的個性が消え去ってしまうからでもある。そこでサファク州の階層区分を郡別に表示してみよう。

表18によると、州全体としては約4割の人数を占める賃金・動産2ポンド未満層が、全体の賃金収入・動産価額の約1割しか所有していない反面、人数にして3パーセントに満たない20ポンド以上層が2割を超える動産を所有していることがわかるが、個々の郡をみると階層の分解度に相当のばらつきがみられる。たとえば、一方においてスレドリング郡、コウニズ(Colneis)郡、ホクスン郡では、賃金・動産2ポンド未満層は1割台の人数しかいないのに、動産2～19ポンド層は8割前後を占め、これらの郡の農民はほとんどが中農である。他方において、リスブリッジ郡やラックフォード・エクスニング郡では、賃金・動産2ポンド未満層の人数がそれぞれ6割、5割を超えているのにたいして、動産2～19ポンド層は三分の一程度にすぎない。この違いは何によるものであろうか。

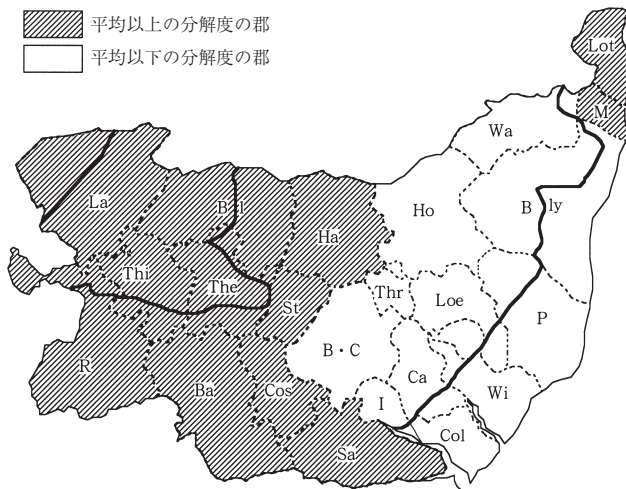
いまかりに階層分解度の州平均である賃金・動産2ポンド未満層の人数41.2パーセント、動産2～19ポンド層55.9パーセントを基準にして、すべての郡を平均以下のものと平均を超えるものとに二分すると図14のようになる。この図に示されたおおまかな分解度の地域差を、第1章と第2章でのべた農業地域・工業地域の特色とかわら

49) 前掲乾論文、95-8ページ。乾論文には西部デヴォン州の階層区分が表示されているが、その数字は織物生産地を含むものであり、そのまま織物生産地を除外したサファク州と比較することができないので本稿では割愛した。

表18 サファク州賃金収入・動産額別階層区分

郡	賃金・動産£2未満	£2～19	£20以上	計
Babergh	人数 (%) 425 (54.9)	331 (42.8)	18 (2.3)	774 (100)
	価額£.s.d.(%) 434. 3. 4. (16.8)	1,691. 16. 0. (65.3)	463. 6. 8. (17.9)	2,589. 6. 0. (100)
Blackbourne	人数 (%) 107 (49.5)	106 (49.1)	3 (1.4)	216 (100)
	価額£.s.d.(%) 111. 10. 0. (17.1)	442. 6. 8. (67.7)	100. 0. 0. (15.3)	653. 16. 8. (100)
Blything	人数 (%) 489 (38.0)	765 (59.4)	33 (2.6)	1,287 (100)
	価額£.s.d.(%) 523. 4. 4. (10.3)	3,630. 10. 0. (71.7)	908. 3. 4. (17.9)	5,061. 17. 8. (100)
Bosmere & Claydon	人数 (%) 242 (39.9)	347 (57.2)	18 (3.0)	607 (100)
	価額£.s.d.(%) 283. 13. 4. (12.0)	1,583. 0. 0. (67.1)	491. 13. 4. (20.8)	2,358. 6. 8. (100)
Carlford	人数 (%) 82 (21.2)	286 (73.9)	19 (4.9)	387 (100)
	価額£.s.d.(%) 84. 0. 0. (4.4)	1,208. 6. 8. (63.5)	609. 6. 8. (32.0)	1,901. 13. 4. (100)
Colneis	人数 (%) 42 (14.6)	235 (81.9)	10 (3.5)	287 (100)
	価額£.s.d.(%) 42. 0. 0. (3.7)	870. 0. 0. (77.2)	215. 0. 0. (19.1)	1,127. 0. 0. (100)
Cosford	人数 (%) 212 (51.8)	188 (46.0)	9 (2.2)	409 (100)
	価額£.s.d.(%) 212. 13. 4. (14.3)	1,014. 0. 0. (68.2)	260. 13. 4. (17.5)	1,487. 6. 8. (100)
Hartismere	人数 (%) 283 (41.9)	378 (55.9)	15 (2.2)	676 (100)
	価額£.s.d.(%) 307. 6. 8. (12.0)	1,761. 13. 4. (68.8)	491. 13. 4. (19.2)	2,560. 13. 4. (100)
Hoxne	人数 (%) 153 (17.6)	688 (79.4)	26 (3.0)	867 (100)
	価額£.s.d.(%) 188. 10. 0. (4.5)	3,270. 19. 8. (78.0)	732. 13. 4. (17.5)	4,192. 3. 0. (100)
Lackford & Exning	人数 (%) 211 (57.7)	145 (39.6)	10 (2.7)	366 (100)
	価額£.s.d.(%) 227. 10. 0. (19.4)	624. 18. 0. (53.3)	319. 6. 8. (27.3)	1,171. 14. 8. (100)
Loes	人数 (%) 87 (23.4)	268 (72.0)	17 (4.6)	372 (100)
	価額£.s.d.(%) 100. 0. 0. (5.8)	1,171. 6. 8. (67.9)	452. 13. 4. (26.3)	1,724. 0. 0. (100)
Lothingland	人数 (%) 140 (56.0)	104 (41.6)	6 (2.4)	250 (100)
	価額£.s.d.(%) 145. 11. 4. (18.4)	494. 0. 0. (62.6)	150. 0. 0. (19.0)	789. 11. 4. (100)
Mutford	人数 (%) 144 (44.6)	168 (52.0)	11 (3.4)	323 (100)
	価額£.s.d.(%) 154. 12. 4. (12.6)	751. 10. 0. (61.1)	323. 1. 4. (26.3)	1,229. 3. 8. (100)
Plomesgate	人数 (%) 159 (37.9)	250 (59.5)	11 (2.6)	420 (100)
	価額£.s.d.(%) 169. 6. 8. (9.9)	1,231. 0. 0. (72.1)	306. 13. 4. (18.0)	1,707. 0. 0. (100)
Risbridge	人数 (%) 406 (66.1)	203 (33.1)	5 (0.8)	614 (100)
	価額£.s.d.(%) 409. 7. 8. (28.1)	912. 16. 8. (62.7)	133. 13. 4. (9.2)	1,455. 17. 8. (100)
Samford	人数 (%) 229 (43.9)	271 (51.9)	22 (4.2)	522 (100)
	価額£.s.d.(%) 252. 0. 0. (12.1)	1,195. 16. 8. (57.4)	635. 0. 0. (30.5)	2,082. 16. 8. (100)
Stow	人数 (%) 115 (44.1)	138 (52.9)	8 (3.1)	261 (100)
	価額£.s.d.(%) 126. 11. 4. (12.2)	735. 7. 8. (70.8)	176. 13. 4. (17.0)	1,038. 12. 4. (100)
Thedwardistre	人数 (%) 226 (52.6)	193 (44.9)	11 (2.6)	430 (100)
	価額£.s.d.(%) 237. 7. 4. (17.9)	758. 10. 4. (57.3)	328. 6. 8. (24.8)	1,324. 4. 4. (100)
Thingoe	人数 (%) 249 (56.3)	180 (40.7)	13 (2.9)	442 (100)
	価額£.s.d.(%) 255. 6. 8. (16.7)	856. 3. 4. (56.0)	418. 13. 4. (27.4)	1,530. 3. 4. (100)
Thredling	人数 (%) 14 (14.4)	80 (82.5)	3 (3.1)	97 (100)
	価額£.s.d.(%) 15. 6. 8. (3.6)	307. 16. 8. (72.7)	100. 0. 0. (23.6)	423. 3. 4. (100)
Wangford	人数 (%) 143 (34.3)	253 (60.7)	21 (5.0)	417 (100)
	価額£.s.d.(%) 151. 10. 0. (7.4)	1,327. 0. 0. (64.7)	571. 6. 8. (27.9)	2,049. 16. 8. (100)
Wilford	人数 (%) 128 (33.3)	240 (62.5)	16 (4.2)	384 (100)
	価額£.s.d.(%) 155. 6. 8. (10.1)	989. 6. 8. (64.2)	397. 0. 0. (25.8)	1,541. 13. 4. (100)
計	人数 (%) 4,286 (41.2)	5,817 (55.9)	305 (2.9)	10,408 (100)
	価額£.s.d.(%) 4,586. 17. 8. (11.5)	26,828. 5. 0. (67.1)	8,584. 18. 0. (21.5)	40,000. 0. 8. (100)

図14 サファク州の農民層分解(郡別)



郡の略称

Ba	Babergh	Ho	Hoxne	Sa	Samford
Bl	Blackbourne	I	Ipswich	St	Stow
Bly	Blything	La	Lackford	The	Thedwardistre
B・C	Bosmere & Claydon	Loe	Loes	Thi	Thingoe
Ca	Carlford	Lot	Lothingland	Thr	Thredling
Col	Colneis	M	Mutford	Wa	Wangford
Cos	Cosford	P	Plomesgate	Wi	Wilford
Ha	Hartismere	R	Risbridge		

せると、次の3点が指摘できる。

まず第一に注目されることは、農業地域としては州の中央部にひろがる森林・放牧地地域の北部に、階層分解の平均以下の郡がかたまっていることである。スレドリング郡を筆頭に、ホクスン郡、カールフォド郡、ロウイス郡等はいずれも賃金・動産2ポンド未満層が人数の1～2割を占めているにすぎないのに、動産2～19ポンド層が7～8割を占めている。この地域では分解が相対的におくれているといえる。第1章でのべたように、この地域の酪農経営は家族経営の小農民によって営まれたという。「かれらのほとんどが富裕ではなかったが、平均的な農民は、牧羊・穀作地域の仲間よりは恵まれていた。富はより均等に配分され、社会階級はあまり鋭く分化せず、人びとの大多数は、みじめなほど貧しいということはなく、少数者が異常に富んでいる

こともなかった」というサースクの指摘は、まさしくこの地域にあてはまるものである⁵⁰⁾。代表的な個別村落の例として、17世紀初頭、土地の6～7割が放牧地となったホクスン郡 Stradbroke の場合をあげると⁵¹⁾、54人の住民のうち9割を超える51人が動産2～19ポンド層に属し、賃金に課税されたのはわずか1人、富農とみられる2人はそれぞれ24ポンドと36ポンドの動産を所有していた（以下の個別事例については表19を参照）⁵²⁾。そしてこのように厚みを帯びた中農層の酪農経営と結びついて、その中から、森林・放牧地地域の北部、ノーファク州との州境にかけてのホクスン郡とワングフォード郡に、半農半工の亜麻織物工業が形成されたと考えられる（図8）⁵³⁾。このタイプの農民層分解をレスタシアに例をとれば、6割を超える2～19ポンド層が動産の9割近くを所有した Wigston Magna 型であるといえよう（表19）⁵⁴⁾。

第二に、同じ森林・放牧地地域でもその南部には、リスブリッジ郡をはじめベイバー郡、コスフォード郡等比較的分解度の高い郡が集まっている。ここでサースクの指摘が必ずしも妥当しないのは、おそらくこの地域が農業地域というよりも、すぐれて毛織物工業地域であって、製品、原料、労働力のすべてにわたって商品経済の網の目にまきこまれていたからであろう。表4でみたように、1522年の調査によれば、ベイバー郡で織物業者のいない純農村とみられる12箇所で、384人の調査対象者のうち農業に従事する者は約三分の一の124人にすぎず、5割ちかい183人が労働者であった⁵⁵⁾。個別村落の例としてベイバー郡の Shimpling をあげておこう（表19）。ここでは17世紀初頭、酪農経営の富農 Edward Lowe が出現したが⁵⁶⁾、1524年には村の住民31人中約三分の一の11人が動産2～19ポンドを所有し、賃金・動産2ポンド未満層が6割を

50) 拙稿(上)35ページ。

51) 同上。

52) Harvey, pp. 192-3. 以下表19の個別例は、サファク州については Harvey により、ノーファク州ギャロウ郡については、拙稿「一六世紀初頭イングランド東部農村の状態—一五二五年ノーファク州ギャロウ郡の臨時税簿の分析—」『経済史経営史論集』1984年に、レスタシアについては、拙稿「16・17世紀イングランド中部農村の諸階層とその動向—レスタシア・ガスラクストン郡の場合—」『大阪経大論集』第162・163合併号、1985年、(以下「レスタシア」と略)による。

53) 拙稿(中)302-8ページ、図8。

54) 前掲拙稿「レスタシア」300-1ページ、表6。

55) 拙稿(中)、280ページ、表4。

56) 拙稿(上)、35ページ。

表19 郡・村の階層区分

郡・村		賃金・動産£2未満		£2~19		£20以上		計	
サファク州									
ホクスン郡	人数 (%)	1	(1.9)	51	(94.4)	2	(3.7)	54	(100)
Stradbroke	価額£.s.d.(%)	1. 0. 0.	(0.4)	224. 13. 4.	(78.6)	60. 0. 0.	(21.0)	285. 13. 4.	(100)
ベイパー郡	人数 (%)	19	(61.3)	11	(35.5)	1	(3.2)	31	(100)
Shimpling	価額£.s.d.(%)	19. 0. 0.	(17.9)	47. 6. 8.	(44.5)	40. 0. 0.	(37.6)	106. 6. 8.	(100)
ブラックバーン郡	人数 (%)	12	(70.6)	5	(29.4)	0	(0)	17	(100)
Culford	価額£.s.d.(%)	12. 0. 0.	(28.6)	30. 0. 0.	(71.4)	0	(0)	42. 0. 0.	(100)
ラックフォード郡	人数 (%)	11	(44.0)	15	(60.0)	0	(0)	25	(100)
Elveden	価額£.s.d.(%)	13. 0. 0.	(17.6)	61. 0. 0.	(82.4)	0	(0)	74. 0. 0.	(100)
同上	人数 (%)	24	(77.4)	7	(22.6)	0	(0)	31	(100)
Eriswell	価額£.s.d.(%)	25. 13. 4.	(34.5)	48. 13. 4.	(65.5)	0	(0)	74. 6. 8.	(100)
同上	人数 (%)	25	(65.8)	12	(31.6)	1	(2.6)	38	(100)
Freckenham	価額£.s.d.(%)	25. 13. 4.	(20.4)	70. 6. 8.	(55.8)	30. 0. 0.	(23.8)	126. 0. 0.	(100)
同上	人数 (%)	39	(67.2)	18	(31.0)	1	(1.7)	58	(100)
Icklingham	価額£.s.d.(%)	39. 13. 4.	(30.1)	52. 0. 0.	(39.5)	40. 0. 0.	(30.4)	131. 13. 4.	(100)
同上	人数 (%)	7	(53.8)	6	(46.2)	0	(0)	13	(100)
Wangford	価額£.s.d.(%)	7. 16. 8.	(29.6)	18. 13. 4.	(70.4)	0	(0)	26. 10. 0.	(100)
シンゴウ郡	人数 (%)	35	(66.0)	14	(26.4)	4	(7.5)	53	(100)
Barrow	価額£.s.d.(%)	35. 0. 0.	(16.2)	78. 6. 8.	(36.2)	103. 0. 0.	(47.6)	216. 6. 8.	(100)
同上	人数 (%)	7	(58.3)	5	(41.7)	0	(0)	12	(100)
Flempton	価額£.s.d.(%)	7. 0. 0.	(29.6)	16. 13. 4.	(70.4)	0	(0)	23. 13. 4.	(100)
同上	人数 (%)	15	(78.9)	2	(10.5)	2	(10.5)	19	(100)
Hengrave	価額£.s.d.(%)	15. 0. 0.	(12.0)	10. 0. 0.	(8.0)	100. 0. 0.	(80.0)	125. 0. 0.	(100)
同上	人数 (%)	12	(75.0)	4	(25.0)	0	(0)	16	(100)
Risby	価額£.s.d.(%)	12. 0. 0.	(33.0)	24. 6. 8.	(67.0)	0	(0)	36. 6. 8.	(100)
コウニズ郡	人数 (%)	9	(15.5)	48	(82.8)	1	(1.7)	58	(100)
Trimley	価額£.s.d.(%)	9. 0. 0.	(4.7)	161. 6. 8.	(84.8)	20. 0. 0.	(10.5)	190. 6. 8.	(100)
同上	人数 (%)	6	(15.8)	30	(78.9)	2	(5.3)	38	(100)
Falkenham	価額£.s.d.(%)	6. 0. 0.	(3.9)	107. 13. 4.	(70.1)	40. 0. 0	(26.0)	153. 13. 4.	(100)
ノーファク州									
ギャロウ郡	人数 (%)	30	(81.1)	7	(18.9)	0	(0)	37	(100)
East Barsham	価額£.s.d.(%)	34. 0. 0.	(69.9)	14. 13. 4.	(30.1)	0	(0)	48. 13. 4.	(100)
同上	人数 (%)	33	(70.2)	13	(27.7)	1	(2.1)	47	(100)
East Raynham	価額£.s.d.(%)	43. 6. 0.	(27.9)	72. 0. 0.	(46.4)	40. 0. 0.	(25.8)	155. 6. 0.	(100)
レスタシア									
ガスラクストン郡	人数 (%)	25	(37.3)	42	(62.7)	0	(0)	67	(100)
Wigston Magna	価額£.s.d.(%)	25. 0. 0.	(12.3)	179. 0. 0.	(87.7)	0	(0)	204. 0. 0.	(100)
同上	人数 (%)	17	(100)	0	(0)	0	(0)	17	(100)
Misterton	価額£.s.d.(%)	17. 0. 0.	(100)	0	(0)	0	(0)	17. 0. 0.	(100)

数え、他方で Robert Lancashire なる富農が40ポンドの動産を所有していた⁵⁷⁾。

第三に、州の北西部は農業地域としては一部に沼沢地を含む牧羊・穀作地域であるが、そこでラックフォード・エクスニング郡をはじめシンゴウ郡、セドワーディスタ郡、ブラックバーン郡等は、森林・放牧地地域南部の諸郡と同様に、動産2～19ポンド層の人数が4割ないし5割、賃金・動産2ポンド未満層が5割から6割ちかくに達している。しかしこの地域で分解を高めた主たる要因は毛織物工業ではなく、この地域に集中した領主的牧羊経営にあったのではないかと考えられる。

第1章でのべたように、この地域の農業上の特色は、ブレッklandとよばれる痩せた土壌と開放耕地制度のもと、領主特権たる牧羊区 (foldcourse) を利用して営まれる領主的牧羊経営であった。農民的囲いこみにたいする領主的牧羊経営の「二つの対抗」、その結果として生じた農民層の貧窮化という構図が推測される。

個別例をあげよう⁵⁸⁾。ブラックバーン郡の Culford は、15世紀にベリ・セント・エドマンズ修道院が2,000頭を超える牧羊経営を営んでいた村であるが、表19にみられるように、1525年、住民17人中7割に達する12人が賃金・動産2ポンド未満層であり、富農は存在しない。ラックフォード郡の Elveden, Eriswell, Freckenham, Icklingham, Wangford はいずれも牧羊区が存在した村であるが、2箇所の2人を除いていずれにも富農は存在せず、Eriswell の賃金・動産2ポンド未満層は8割にちかい。この Eriswell では14世紀、Ely の司教が直営地に1,000頭を超える羊群を所有し、Elveden の牧羊区所有者は、1539年、11の牧羊区に3,200頭の羊を放牧していた。またシンゴウ郡に牧羊区の存在する Barrow その他の諸村落の場合も、動産2～19ポンド層が1割から4割、賃金・動産2ポンド未満層が6～8割に達しており、この郡では市場町 Bury St Edmunds の存在を無視することができないとしても、牧羊区による農民の耕作権侵害によって多くの貧農が形成されたとみられる。これらサファク州北西部の牧羊・穀作地域における農民層分解の特質は、森林・放牧地地域南部の毛織物工業地域の農村と異なって、領主的牧羊経営による中農層の収奪という点で、ノーファク州北西部の同じく牧羊・穀作地域にあって、ファーマー家やタウンゼンド家といった領主的牧羊経営のもとにおかれたギャロウ郡の East Barsham や East Raynham (表19) と

57) Harvey, p.42.

58) 以下の具体例については、拙稿(上)、36-41ページを参照。

同じタイプのものであったと考えられる⁵⁹⁾。

なお、東部海岸線に沿って南北に細長く伸び、サンドリングズとよばれる痩せた土壌の牧羊・穀作地域について、その北端と南端に位置するロウジングランド郡とコウニズ郡は、前者の動産2～19ポンド層の人数4割にたいして后者の8割と対照的である(表18, 図14)が、その理由を示す十分な材料がない。ただ17世紀初頭までにすべての開放耕地が囲いこまれたコウニズ郡の Trimley と Falkenham が⁶⁰⁾、8割前後の動産2～19ポンド層をもち(表19)、この郡の典型であるとする、この郡は森林・放牧地地域北部タイプの農民的囲いこみ地域であったと考えられる。

む す び

1524～25年の臨時税課税簿を史料として利用する場合の効用は、ときとして個別村落の具体像について思わぬ発見をもたらすことがある。たとえば、ミッドランドのレスタシア、ガスラクストン郡の Misterton という村の場合はその典型である。課税簿によると、1524年のこの村の住民は、囲いこみ領主で160ポンドという郡内最高の土地収入に課税されたナイトの Sir Thomas Pulteney と牧師の2人を除くと⁶¹⁾、すべて賃金収入に課税された17人の貧農ないし賃金労働者であった(表19)。これは牧羊経営領主の囲いこみによる資本の本源的蓄積の結果、ついには廃村と化する直前の村落像を如実に示すものであった⁶²⁾。

このように臨時税課税簿が個別村落の具体像を明らかにしてくれることがあるとはいえ、その史料としてのもう一つの重要な効用は、北部の一部諸州を除く全イングランド的規模で数量的データを提供してくれることである。その一つが課税額によるものであり、他の一つが課税の対象となった財産、本稿の場合は賃金収入と動産の大きさである。

課税額は俗人にかざられるとはいえ、富の地域的分布の比較を可能とし、さらに黒

59) 前掲拙稿「一六世紀初頭イングランド東部農村の状態」, 794-804ページ。なおタウンゼント家の牧羊経営については、拙稿「一六世紀ノーファクにおける牧羊経営記録」『大阪経大論集』第145・146合併号, 1982年, をも参照。

60) 拙稿(上), 38ページ。

61) 前掲拙稿「レスタシア」, 295-300 ページ。

62) 同上, 305-6ページ。

死病に先立つ1334年の臨時税と1524-25年の臨時税とを比較することによって、富の地域的分布の時代的変動をも量的に把握することができた。イングランドの西部と東部への富の集中は両地域における毛織物工業の発展によるものであらうと想定されたが、サファク州に関しては、図11における富の増加率の高い州南西部と州北部が、第1章の農業地域論と第2章の工業地域論において検討した結果とつきあわせることによって、森林・放牧地地域の南部、ストゥア川流域を中心とした毛織物工業地域と、同じ森林・放牧地地域の北部ウェイヴニ川流域を中心とした亜麻織物工業地域であることが判明し、富の源泉が裏付けられた。このことは、市場町・毛織物生産地の課税額が他の諸州の市場町とくらべて群を抜いて高いことから確認された。

課税対象となった賃金収入・動産によって農民層の階層区分をおこなった結果を、やはり農業地域と工業地域の特質とつきあわせることによって、地域によって異なる農民層分解の三つのタイプを読み取ることができた。(1)森林・放牧地地域の北部は、相対的に分解がおくれた「富裕ではないがみじめなほど貧しくはない」中農層の多い地域であり、レスタシアに例をとると Wigston Magna 型である。(2)森林・放牧地地域の南部では繁栄した市場町と毛織物生産地周辺の農村の分解度は相対的に高かった。ただしこれは1520年代の横断面を示すものであって、16世紀半ばから後半にかけて分解が順調に進むかどうかについて断定は難しい。トマス・スプリングをはじめこの地域の富裕な織元がすでに1520年代から、織物業で得た利益を土地に投資し、ジェントリやマナー領主に変身していったように、レスタシアの富裕なヨーマンがジェントリやマナー領主に上昇していった⁶¹⁾と同じ道をたどった可能性が高い。(3)州北西部の牧羊・穀作地域の相対的に高い分解度は、牧羊区を利用した領主の牧羊経営によって耕作権を侵害された農民の貧窮化によって生じた。その点で、この地域の農民層分解のタイプは、ノーファク州ギャロウ郡で領主タウンゼンド家のもとで進行していた East Raynham 型のものであった。

シェイクスピアが、戯曲『ヘンリ8世』の登場人物に語らせている織物職人の課税反対闘争は架空の物語ではなく、臨時税が課された1525年にサファク州南部の毛織物工業地帯を中心起こった事実である。またサファク州の北に隣接するノーファク州で1549年におこった「ケットの反乱」は、East Raynham 型の収奪にたいする農民闘争であった。いずれも絶対王政の政府を震撼させる出来事であったが、これらの民衆運動が、本稿でのべたサファク州の諸地域諸階層の人びとと、どのようにかかわってど

のように展開したのか，検討されるべき課題である。

付表1 市場町・織物生産地の臨時税

年代	教区	納税額			納税者数 人	1人あたり 平均納税額 d.	郡
		£	s.	d.			
1525	Ipswich	223	17	2	412+ ?	110.9	
1524	Lavenham	179	13	10	199	216.7	Babergh
1525	Bury St Edmunds	169	8	8	658	61.8	
1525	Hadleigh	108	10	4	303	86.0	Cosford
1525	Beccles	71	9	8	309	55.5	Wangford
1524	Long Melford	65	7	0	154	101.8	Babergh
1524	Sudbury	60	14	4	218	66.8	Babergh
1524	Nayland	58	13	4	102	138.0	Babergh
1524	Stratford St Mary	55	0	3	84	157.2	Samford
1524	East Bergholt	50	9	0	123	98.4	Samford
1525	Woodbridge	42	2	6	169	59.8	Loes
1525	Bungay	35	0	4	143	58.8	Wangford
	Boyscote in Bungay						
1525	Dunwich	32	0	0	235	32.7	
1524	Stoke by Nayland	31	1	0	117	63.7	Babergh
1525	Lowestoft	29	11	8	144	49.3	Lothingland
1524	Glemsford	26	6	4	122	51.8	Babergh
1525	Blythburgh	25	12	4	70	87.8	Blything
1525	Southwold	25	11	2	117	52.4	Blything
1524	Boxford	23	15	0	112	50.9	Babergh
1524	Stowmarket	22	16	10	99	55.4	Stow
1525	Aldeburgh	22	14	8	115	47.4	Plomesgate
1524	Waldingfield Parva	21	17	2	58	90.4	Babergh
1525	Needham Market	20	13	10	63	78.8	Bosmere & Claydon
1525	Mildenhall	19	8	0			Lackford & Exning
1525	Framlingham	16	13	2	86	46.5	Loes
1525	Debenham	15	12	6	93	40.3	Thredling
1525	Brandon	15	10	8			Lackford & Exning
1524	Clare	14	5	6	82	41.8	Risbridge
1525	Orford	14	1	4	92	36.7	Plomesgate
1524	Waldingfield Magna	13	8	8	41	78.6	Babergh
1525	Halesworth	13	2	6	65	48.5	Blything
1525	Bildeston	11	10	8	105	26.4	Cosford
1525	Eye	11	1	0	91	29.1	Hartismere
1525	Wickham	10	4	2	61	40.2	Wilford
1524	Edwardstone	9	17	4	53	44.7	Babergh
1525	Woolpit	8	5	10	59	33.7	Thedwardistre
1525	Redgrave & Botesdale	8	5	0	57	34.7	Hartismere
1525	Newmarket	7	5	4	42	41.5	Lackford & Exning
1525	Mendlesham	7	2	4	54	31.6	Hartismere
1524	Groton	5	15	3	40	34.6	Babergh
1524	Haverhill	5	14	8	68	202	Risbridge
1525	Ixworth	3	15	0	53	17.0	Blackbourne
1525	Saxmundham	3	15	0	32	28.1	Plomesgate

付表 2-a 動産・賃金収入による農村地域の郡別階層区分(人数)

州	年代	教区数	賃金		動産													
			収入	(%)	£2未満	(%)	£2	(%)	£3~4	(%)	£5~19	(%)	£20~29	(%)	£30以上	(%)	計	(%)
Babergh	1524	21	196	(25.3)	229	(29.6)	123	(15.9)	73	(9.4)	135	(17.4)	15	(1.9)	3	(0.4)	774	(100)
Blackbourne	1525	13	101	(46.8)	6	(2.8)	37	(17.1)	35	(16.2)	34	(15.7)	1	(0.5)	2	(0.9)	216	(100)
Blything	1525	44	240	(18.6)	249	(19.3)	261	(20.3)	215	(16.7)	289	(22.5)	21	(1.6)	12	(0.9)	1,287	(100)
Bosmere & Claydon	1525	27	24	(4.0)	218	(35.9)	150	(24.7)	85	(14.0)	112	(18.5)	12	(2.0)	6	(1.0)	607	(100)
Carlford	1525	18	51	(13.2)	31	(8.0)	146	(37.7)	58	(15.0)	82	(21.2)	10	(2.6)	9	(2.3)	387	(100)
Colneis	1524/25	10	30	(10.5)	12	(4.2)	157	(54.7)	22	(7.7)	56	(19.5)	9	(3.1)	1	(0.3)	287	(100)
Cosford	1524/25	14	185	(45.2)	27	(6.6)	67	(16.4)	25	(6.1)	96	(23.5)	5	(1.2)	4	(1.0)	409	(100)
Hartismere	1524	28	257	(38.0)	26	(3.8)	159	(23.5)	81	(12.0)	138	(20.4)	7	(1.0)	8	(1.2)	676	(100)
Hoxne	1524	24	122	(14.1)	31	(3.6)	312	(36.0)	131	(15.1)	245	(28.3)	18	(2.1)	8	(0.9)	867	(100)
Lackford & Exning	1524/25	10	109	(29.8)	102	(27.9)	60	(16.4)	47	(12.8)	38	(10.4)	7	(1.9)	3	(0.8)	366	(100)
Loes	1524/25	18	65	(17.5)	22	(5.9)	129	(34.7)	58	(15.6)	81	(21.8)	13	(3.5)	4	(1.1)	372	(100)
Lothingland	1524	12	60	(24.0)	80	(32.0)	36	(14.4)	25	(10.0)	43	(17.2)	4	(1.6)	2	(0.8)	250	(100)
Mutford	1524	8	70	(21.7)	74	(22.9)	66	(20.4)	46	(14.2)	56	(17.3)	5	(1.5)	6	(1.9)	323	(100)
Plomesgate	1525	21	74	(17.6)	85	(20.2)	116	(27.6)	39	(9.3)	95	(22.6)	5	(1.2)	6	(1.4)	420	(100)
Risbridge	1524/25	22	21	(3.4)	385	(62.7)	86	(14.0)	51	(8.3)	66	(10.7)	4	(0.7)	1	(0.2)	614	(100)
Samford	1524/25	26	181	(34.7)	48	(9.2)	124	(23.8)	69	(13.2)	78	(14.9)	11	(2.1)	11	(2.1)	522	(100)
Stow	1524/25	12	106	(40.6)	9	(3.4)	49	(18.8)	27	(10.3)	62	(23.8)	7	(2.7)	1	(0.4)	261	(100)
Thedwardistre	1525	23	209	(48.6)	17	(4.0)	96	(22.3)	49	(11.4)	48	(11.2)	6	(1.4)	5	(1.2)	430	(100)
Thingoe	1525	19	249	(56.3)	0	(0)	77	(17.4)	36	(8.1)	67	(15.2)	10	(2.3)	3	(0.7)	442	(100)
Thredling	1525	4	6	(6.2)	8	(8.2)	41	(42.3)	19	(19.6)	20	(20.6)	1	(1.0)	2	(2.1)	97	(100)
Wangford	1525	24	93	(22.3)	50	(12.0)	82	(19.7)	67	(16.1)	104	(24.9)	13	(3.1)	8	(1.9)	417	(100)
Wilford	1525	15	75	(19.5)	53	(13.8)	134	(34.9)	43	(11.2)	63	(16.4)	12	(3.1)	4	(1.0)	384	(100)
計		413	2,524	(24.3)	1,762	(16.9)	2,508	(24.1)	1,301	(12.5)	2,008	(19.3)	196	(1.9)	109	(1.0)	10,408	(100)

付表 2-b 動産・賃金収入による農村地域の郡別階層区分(価額)

州	年代	教区数	賃金				動産 £ 2 未満				£ 2				£ 3 ~ 4			
			£	s.	d.	(%)	£	s.	d.	(%)	£	s.	d.	(%)	£	s.	d.	(%)
Babergh	1524	21	204	16	8	(7.9)	229	6	8	(8.9)	252	0	0	(9.7)	251	3	4	(9.7)
Blackbourne	1525	13	103	16	8	(15.9)	7	13	4	(1.2)	78	13	4	(12.0)	121	13	4	(18.6)
Blything	1525	44	257	4	4	(5.1)	266	0	0	(5.3)	528	16	8	(10.4)	743	16	8	(14.7)
Bosmere & Claydon	1525	27	37	3	4	(1.6)	246	10	0	(10.5)	302	0	0	(12.8)	287	13	4	(12.2)
Carlford	1525	18	52	6	8	(2.8)	31	13	4	(1.7)	295	13	4	(15.5)	207	6	8	(10.9)
Colneis	1524/25	10	30	0	0	(2.7)	12	0	0	(1.1)	314	0	0	(27.9)	80	6	8	(7.1)
Cosford	1524/25	14	185	0	0	(12.4)	27	13	4	(1.9)	134	13	4	(9.1)	87	0	0	(5.8)
Hartismere	1524	28	279	10	0	(10.9)	27	16	8	(1.1)	331	3	4	(12.9)	288	0	0	(11.2)
Hoxne	1524	24	153	13	4	(3.7)	34	16	8	(0.8)	631	13	4	(15.1)	458	0	0	(10.9)
Lackford & Exning	1524/25	10	111	16	8	(9.5)	115	13	4	(9.9)	127	18	0	(10.9)	167	0	0	(14.3)
Loes	1524/25	18	76	6	8	(4.4)	23	13	4	(1.4)	259	6	8	(15.0)	207	0	0	(12.0)
Lothingland	1524	12	64	18	0	(8.2)	80	13	4	(10.2)	72	0	0	(9.1)	88	6	8	(11.2)
Mutford	1524	8	76	5	8	(6.2)	78	6	8	(6.4)	134	3	4	(10.9)	156	13	4	(12.7)
Plomesgate	1525	21	80	13	4	(4.7)	88	13	4	(5.2)	232	13	4	(13.6)	140	13	4	(8.2)
Risbridge	1524/25	22	26	12	8	(1.8)	382	15	0	(26.3)	176	6	8	(12.1)	181	0	0	(12.4)
Samford	1524/25	26	195	6	8	(9.4)	56	13	4	(2.7)	254	6	8	(12.2)	242	10	0	(11.6)
Stow	1524/25	12	117	13	4	(11.3)	8	18	0	(0.9)	103	11	0	(10.0)	94	10	0	(9.1)
Thedwardistre	1525	23	215	14	0	(16.3)	21	13	4	(1.6)	200	10	0	(15.1)	171	0	0	(12.9)
Thingoe	1525	19	255	6	8	(16.7)					159	13	4	(10.4)	129	13	4	(8.5)
Thredling	1525	4	6	6	8	(1.5)	9	0	0	(2.1)	82	10	0	(19.5)	65	13	4	(15.5)
Wangford	1525	24	97	13	4	(4.8)	53	16	8	(2.6)	165	6	8	(8.1)	240	6	8	(11.7)
Wilford	1525	15	102	6	8	(6.6)	53	0	0	(3.4)	270	0	0	(17.5)	154	6	8	(10.0)
		413	2,730	11	4	(6.8)	1,856	6	4	(4.6)	5,106	19	0	(12.8)	4,563	13	4	(11.4)

州	£5 ~ 19				£20 ~ 29				£30 以上				計			
	£	s.	d.	(%)	£	s.	d.	(%)	£	s.	d.	(%)	£	s.	d.	(%)
Babergh	1,188	12	8	(45.9)	333	6	8	(12.9)	130	0	0	(5.0)	2,589	6	0	(100)
Blackbourne	242	0	0	(37.0)	20	0	0	(3.1)	80	0	0	(12.2)	653	16	8	(100)
Blything	2,357	16	8	(46.6)	485	13	4	(9.6)	422	10	0	(8.3)	5,061	17	8	(100)
Bosmere & Claydon	993	6	8	(42.1)	246	13	4	(10.5)	245	0	0	(10.4)	2,358	6	8	(100)
Carlford	705	6	8	(37.1)	226	0	0	(11.9)	383	6	8	(20.2)	1,901	13	4	(100)
Colneis	475	13	4	(42.2)	185	0	0	(16.4)	30	0	0	(2.7)	1,127	0	0	(100)
Cosford	792	6	8	(53.3)	110	13	4	(7.4)	150	0	0	(10.1)	1,487	6	8	(100)
Hartismere	1,142	10	0	(44.6)	151	13	4	(5.9)	340	0	0	(13.3)	2,560	13	4	(100)
Hoxne	2,181	6	4	(52.0)	404	13	4	(9.7)	328	0	0	(7.8)	4,192	3	0	(100)
Lackford & Exning	330	0	0	(28.2)	169	6	8	(14.5)	150	0	0	(12.8)	1,171	14	8	(100)
Loes	705	0	0	(40.9)	286	0	0	(16.6)	166	13	4	(9.7)	1,724	0	0	(100)
Lothingland	333	13	4	(42.3)	80	0	0	(10.1)	70	0	0	(8.9)	789	11	4	(100)
Mutford	460	13	4	(37.5)	112	0	0	(9.1)	211	1	4	(17.2)	1,229	3	8	(100)
Plomesgate	857	13	4	(50.2)	106	13	4	(6.2)	200	0	0	(11.7)	1,707	0	0	(100)
Risbridge	555	10	0	(38.2)	88	13	4	(6.1)	45	0	0	(3.1)	1,455	17	8	(100)
Samford	699	0	0	(33.6)	226	13	4	(10.9)	408	6	8	(19.6)	2,082	16	8	(100)
Stow	537	6	8	(51.7)	146	13	4	(14.1)	30	0	0	(2.9)	1,038	12	4	(100)
Thedwardistre	387	0	4	(29.2)	140	0	0	(10.6)	188	6	8	(14.2)	1,324	4	4	(100)
Thingoe	566	16	8	(37.0)	223	13	4	(14.6)	195	0	0	(12.7)	1,530	3	4	(100)
Thredling	159	13	4	(37.7)	20	0	0	(4.7)	80	0	0	(18.9)	423	3	4	(100)
Wangford	921	6	8	(44.9)	283	6	8	(13.8)	288	0	0	(14.0)	2,049	16	8	(100)
Wilford	565	0	0	(36.6)	267	0	0	(17.3)	130	0	0	(8.4)	1,541	13	4	(100)
	17,157	12	8	(42.9)	4,313	13	4	(10.8)	4,271	4	8	(10.7)	40,000	0	8	(100)